

平成 26 年 5 月 9 日

各位

リアルコム株式会社
代表取締役社長 龍 潤生
(コード番号：3856 東証マザーズ市場)
問合せ先：取締役管理部長 佐々木 司
電話：03-6864-4001 (代表)

過年度に係る有価証券報告書等の訂正報告書及び決算短信等（訂正版）の公表について

当社は、平成 26 年 5 月 2 日付「過年度決算短信及び有価証券報告書等の訂正に関するお知らせ」でお知らせいたしましたとおり、過年度に公表いたしました連結財務諸表の訂正作業を進めてまいりましたが、本日下午記のとおり有価証券報告書等を訂正し関東財務局へ訂正報告書等の提出を行い、過年度の決算短信等を訂正し公表いたしましたので、お知らせいたします。また、平成 26 年 3 月 11 日付で関東財務局へ提出しております有価証券届出書につきましては、本日発表の訂正報告書等に基づき、現在訂正作業を進めております。来週早々に関東財務局へ訂正届出書を提出する予定です。

なお、訂正後の連結財務諸表等につきましては、清和監査法人による監査を受けており、改めて監査報告書等を添付しております。

記

1. 本日提出した訂正報告書等

有価証券報告書 平成 25 年 6 月期 (自 平成 24 年 7 月 1 日 至 平成 25 年 6 月 30 日)
内部統制報告書 平成 25 年 6 月期 (自 平成 24 年 7 月 1 日 至 平成 25 年 6 月 30 日)
四半期報告書 平成 26 年 6 月期第 1 四半期 (自 平成 25 年 7 月 1 日 至 平成 25 年 9 月 30 日)
平成 26 年 6 月期第 2 四半期 (自 平成 25 年 10 月 1 日 至 平成 25 年 12 月 31 日)

2. 本日公表した訂正決算短信等

連結決算短信 平成 25 年 6 月期 (自 平成 24 年 7 月 1 日 至 平成 25 年 6 月 30 日)
四半期決算短信 平成 26 年 6 月期第 1 四半期 (自 平成 25 年 7 月 1 日 至 平成 25 年 9 月 30 日)
平成 26 年 6 月期第 2 四半期 (自 平成 25 年 7 月 1 日 至 平成 25 年 12 月 31 日)

3. 訂正の経緯及び理由

当社は、平成 24 年 6 月期の第 2 四半期に、連結子会社である WWB 株式会社の全株式を株式交換により取得しました。本株式交換による WWB 株式の取得により発生した連結貸借対照表上ののれんは株式交換時点で 635 百万円であり、その後、のれん償却により、平成 24 年 6 月期末では 624

百万円の残高となっております。さらに、平成 25 年 6 月期ののれんの評価をした結果、108 百万円の減損損失額を計上し、平成 25 年 6 月期ののれんは 484 百万円としておりました。

当社では、平成 25 年 6 月期におけるのれん評価に係る超過収益力の計算過程において、連結納税の適用により生じる子会社からの未収法人税等を将来キャッシュ・フローとしてのれん評価計算の対象範囲に含めておりましたが、会計監査人より、その評価計算の対象範囲に誤りがあることが判明し、平成 25 年 6 月期におけるのれん評価を訂正すべきであるとの指摘を平成 26 年 3 月 26 日に受けました。

その後、当該指摘についての適否に関する検証を外部機関、コンサルタント会社と協議を重ね、また、会計監査人とも審議の上、慎重に検討をした結果、平成 26 年 4 月 22 日に当該指摘の修正を行う事を決定し、リリースを行いました。

平成 26 年 4 月 23 日以降において、当該指摘について再度会計監査人と審議を行い慎重に検討をした結果、連結納税の適用により生じる子会社からの未収法人税、支払利息、事業税等及び法人税等を将来キャッシュ・フローとしてのれん評価計算の対象範囲に含めておりましたが、「固定資産の減損に係る会計基準」(二 減損損失の認識と測定 4. 将来キャッシュ・フロー (5) 将来キャッシュ・フローには、利息の支払額並びに法人税等の支払額及び還付額を含めない。)を鑑み、これらをのれん評価に係る計算から除外し、のれん評価及びのれんの減損額を訂正するとともに、のれん償却額もあわせて訂正することとしました。また、前記訂正に加え、建設機械販売における商品について、平成 25 年 6 月期末に見積もった評価損の計上金額が過少であったため、当該項目についても再検討を行い、あわせて訂正することとしました。

4. 訂正による影響額の概要

平成 26 年 5 月 2 日付「過年度有価証券報告書等、決算短信等の決算数値訂正に関するお知らせ」においてご報告した数値に変更ありません。

本訂正における影響額の概要は以下のとおりとなります。

1) 平成 25 年 6 月期における対象となるのれん計上額の訂正

(単位：千円)

	訂正前	訂正後	影響額
平成 25 年 6 月期末	484,321	86,809	△397,512

2) 平成 25 年 6 月期の本件にかかるのれん減損損失の訂正

(単位：千円)

	訂正前	訂正後	影響額
平成 25 年 6 月期	108,000	505,512	397,512

影響額は当該決算期の特別損失として反映いたします。

3) 平成26年6月期以降の本件にかかるのれん償却額の訂正

(単位：千円)

	訂正前	訂正後	影響額
平成26年6月期第1四半期	6,574	4,340	△2,234
平成26年6月期第2四半期	13,148	8,680	△4,468

影響額は当該決算期の販売費及び一般管理費の減額として反映いたします。

4) 平成25年6月期以降の本件にかかる商品評価損の訂正

(単位：千円)

	訂正前	訂正後	影響額
平成25年6月期	10,988	23,946	12,958
平成26年6月期第1四半期	9,295	7,158	△2,137
平成26年6月期第2四半期	10,822	6,689	△4,133

影響額は当該決算期の売上原価の加減算として反映いたします。

以上の修正を受け、連結業績への影響額は以下ようになります。

(単位：千円)

期間	項目	訂正前	訂正後	影響額
平成25年6月期 通期	売上高	2,303,314	2,303,314	—
	営業利益	205,274	192,316	△12,958
	経常利益	115,472	102,514	△12,958
	当期純利益	116,652	△293,817	△410,470
	総資産	1,579,858	1,169,388	△410,470
	純資産	505,834	95,364	△410,470
平成26年6月期 第1四半期	売上高	629,305	629,305	—
	営業利益	52,086	56,457	4,371
	経常利益	29,743	34,114	4,371
	当期純利益	25,506	29,877	4,371
	総資産	1,693,506	1,287,407	△406,098
	純資産	531,340	125,242	△406,098
平成26年6月期 第2四半期	売上高	1,532,773	1,532,773	—
	営業利益	144,373	152,974	8,601
	経常利益	124,673	133,275	8,601
	当期純利益	103,036	111,638	8,601
	総資産	1,775,611	1,373,743	△401,868

	純 資 産	611,050	209,181	△401,868
--	-------	---------	---------	----------

5. 再発防止について

今回の過年度の決算を訂正する事態を真摯に受け止め、以下に掲げる再発防止策を確実に実行してまいります。

1) 複雑な連結決算処理に関する専門知識の強化

今回の決算訂正の対象となったのれんの評価のように、M&A等において連結決算に複雑に影響する場合でも、より適切な処理の判断ができるよう、経理部門の担当者は監査法人等が主催するセミナーに今まで以上に参加を行い、連結決算処理に関する専門知識のブラッシュアップを図ってまいります。

2) 重要な非経常取引の検討過程における社外専門家からの意見聴取の徹底

重要な非経常取引の検討過程において、より適切な会計処理の判断が行えるよう、今まで以上に社外専門家から意見を聴取し検討を行ってまいります。

3) 棚卸資産評価に係る業務プロセスにおける内部統制の改善

棚卸資産のモニタリングにおけるプロセスの改善及び強化を行ってまいります。

以 上